

■賢環 興福寺の学僧。最澄から尾張大僧都と呼ばれ、平安遷都に際し、地相を検した後、入滅した。

けんけい

日本書紀始・714= 生。出自は尾張国愛智郡成海郷の荒田井氏。

藤原不比等没 720= 6歳 :

三世一身法・723= 9歳 :

長屋王の変・729=15歳 :

第9回遣唐使 732=18歳 :

藤原四卿没・737=23歳 :

国分寺建立詔 741=27歳 :

大仏造立の詔 743=29歳 : 史料上の初見は、「優婆塞貢進解」に、師主元興寺賢環とあるものである。

・・・・・・ 744=30歳 : 良弁の要請で、金光明寺で道融のもとで永厳とともに復師を務め、「六巻抄」を講じたという。時に僧都。

・・・・・・ 750=36歳 :

師宣教から主として法相教学を学んだが、その学問に対する造詣は深く、戒明が請来した「釈摩訶衍論」を偽教と断定したほどであった。所属寺院は、いつの時点からかは不明だが、興福寺となっている。

鑑真来日・・ 754=40歳 : 鑑真渡来の際には、思託らと激しい論戦を交えたが敗北し、旧戒を捨ててあらためて受戒している。

聖武天皇没・756=42歳 :

万葉集最終歌 759=45歳 :

・・・・・・ 768=54歳 :

宇佐八幡神託 769=55歳 :

・・・・・・ 774=60歳 : 鏡忍とともに律師に任命された。

第16回遣唐使 777=63歳 : 以後、怨霊と病気に悩む山部親王(桓武天皇)のため、室生山中において、浄行僧5人を請い延寿法が修せられた際、その一員に加えられ、親王との関係が親密になり。

・・・・・・ 779=65歳 : \*少僧都となる。その後、室生山中に室生寺を建立し、元興寺の比蘇寺に対する興福寺の山林道場とした。

蝦夷大反乱・780=66歳 : 多度神宮寺に三重塔を完成させており、ここに漸次盛んになりつつあった神仏習合思想の担い手としての姿をみることができる。

桓武天皇即位 781=67歳 :

長岡京造営始 784=70歳 : \*大僧都に任ぜられるが、この時の僧綱は、長岡遷都賛成の僧によって構成されているといつてよい。

藤原種継暗殺 785=71歳 : 藤原種継暗殺事件以後は、遷都反対派勢力との対応に苦慮したと思われるが、桓武天皇との関係では、相次ぐ不幸に苦悩する桓武の精神的支柱になっていたと考えられる。最澄戒牒や、

長岡京中斷・786=72歳 :

蝦夷征伐始・788=74歳 : 「多度神宮寺伽藍縁起并資財帳」には、ともに大僧都として署名している。

平安京築造始 793=79歳 : \*平安遷都に際し、藤原小黒麻呂・紀古佐美らと地相を検した後、入滅した。